

伊方町議会第 8 1 回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	1 「地域の公共交通手段」について	町 長
質問の要旨		
県下でも高齢化比率の高い伊方町では今後、ますます免許返納者も増えてくることが予想されます。都市部と違い日本一細長い佐田岬半島は観光面では P R できるメリットが大きい一方、生活面、交通面では厳しいところがあります。 当初、伊方町ではデマンド交通を行っていましたが現在は、地域巡回バス（路線バス）の運行となっています。それぞれにメリット、デメリットはあると思いますが、中山間地にお住まいで地域巡回バスを利用している高齢者の中には体が思うように動かないので地域巡回バスに乗るまでが昔より大変になったというお声を聞きます。自由乗降制度を採用していただいておりますが、集落の坂道をのぼったり、くだったりして道路までようやくたどり着くという状況のようです。 デマンドなら、自宅の近いところまで来てくれてよかったというお声も聞きました。 そこで、3 点についてお尋ねいたします。 1 点目、高齢化により免許返納者等も増えていると思いますが、デマンド交通と地域巡回バスとを比較して、利用者はどのように推移していますか。 また、デマンド交通と地域巡回バスのメリット、デメリット、そして利用者の声をどのように分析、把握していますか。運営的には、利用者の声から午後からの便が利用者も少ないような状況が見うけられると聞きますが、利用者のニーズをふまえてもっと効果的、効率的な運用はできないでしょうか。 2 点目、現在、往路を地域巡回バスを利用した場合、希望すれば復路のタクシーチケットをいただけるので時間の自由度が高まるので良いのですが、額が少ないとの声や浸透がまだしていないとの声も聞きます。これについての利用数や利用者の反応はどうでしょうか。 3 点目、令和 6 年に国土交通大臣表彰を受賞した鳥取県智頭町の例で申し上げますと、住民ドライバーが自家用車を活用する共助交通「のりりん」（公共ライドシェア）を令和 5 年度から本格導入、予約に用いる A I デマンドシステムには防災情報等の告知に使われている町内各戸の I P 告知放送端末とデータ連携を可能にしています。また、運行管理業務を外部委託し遠隔点呼を実施することで、町の業務負担を軽減し、持続可能性を高めています。現在、伊方町では防災無線の更新もひかえていると聞いていますので、このような事例もふまえて、幅広く専門家等の人材をあつめて、5 年後、1 0 年後の地域公共交通の議論が今から必要ではないでしょうか。		

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	2 物価高騰対策について	町 長
質問の要旨		
昨今の物価高はとどまることをしりません。最近では米不足の話題がニュースをにぎわせています。 財務省のホームページにのっていますが、租税負担及び社会保障負担を合わせた義務的な公的負担の国民所得に対する比率を表す国民負担率を見ると2021年度の統計で48.1%と約半分の負担となっていますので、それから物価高が進行し可処分所得、いわゆるつかえるお金はますます少なくなり生活はますます苦しくなっています。伊方町は住民税非課税世帯も多く、年金のみの収入の方も多いと思います。 国の方でも、物価高対策として手当てがなされて、伊方町では今回のプレミアム商品券や低所得者支援給付金をだしている状況です。 このような状況ですから、町民が疲弊する前に独自の財源を活用して支援することが必要なタイミングであると考えます。先日も、議員全員協議会で町長が言われていたように任期中に財政調整基金をつみあげてきたと言われていました。ただ、ためるばかりでもいいけないので、必要なタイミングで使いたいとおっしゃられていたと記憶しております。 たとえば、コロナ禍において上水道の基本料金を免除したように、事務負担も少ない形で町民への物価高対策をおこなえないかお尋ねいたします。 また、あわせて農林水産従事者や地域の事業者に対しての支援を考えていないかお尋ねいたします。		